



# マナビっつうしん

令和2年11月16日(月)

人権

## 正しく知ること 自分のあり方を考えること

朝晩の冷え込みが厳しくなり、気がつけば今年もあと一ヶ月半。新型コロナウイルス感染者もじわじわと増え始め、これからも気を緩められない日が続きます。このコロナ禍の中、社会人権教育のスキルアップ講座や人権教育・啓発研究協議会は日時や内容を変更しながら何とか行うことができました。講師の皆様、会場・運営に関わっていただいた皆様、受講して下さった皆様、ありがとうございました。参加できなかった皆様にも講座の様子を知っていただきたいと思い、今回特集してみました。読んでいただきながら、少しでも周りの方と話題にしていいただければと思います。

### 【人権教育実践カスキルアップ講座】

① 7月30日(木) 会場：松本合同庁舎

内容：講義「同和問題基礎講座」 講師・東信教育事務所生涯学習課指導主事  
講義「中信地区の部落史について」

講師・松本人権推進古文書研究会理事長 高木美好さん

受講者：当日参加 26 人（学校職員 5 人・市町村関係 21 人） ネット視聴による受講 10 人

感想：・「古文書」という本物からのお話を聞き、歴史に埋もれた事実の重さを感じます。いただいた資料よりまた学ばせていただきます。

- ・被差別部落の成り立ちを正しく学べたのはとても有意義でした。本当の差別が明治以降の貧困から始まったということを知りました。
- ・資料集は貴重品です。大変わかりやすくお話しされ、差別の歴史を現在にまで続けて話していただけたことは、再度確認することができ、大変ありがたかったです。当事者から直接話を聞くことの大切さを痛感しました。
- ・実際に調べたり、学ばれたりしてきたことを元にした話で、とても興味深くお聴きしました。地元のことを知ること、知った上で差別しないこと、そんな心構えを新たにしました。

② 9月8日(火) 会場：大町市常盤公民館・松川村すずの音ホール

内容：○同和問題研修

説明・資料見学「大町市同和教育集会所について」

講師・大町市教育委員会生涯学習課 手塚善雄さん

講話「人権と同和教育」 講師：部落解放同盟大町市協議会長 小林 仁さん

○戦中戦後の郷土史についての研修

講話「少年農兵隊とは何か、そして何をしたのか」

講師・地域の語り部 立花健経さん 松川村公民館 丸山明貴子さん

受講者：当日参加 29 人（学校職員 7 人・市町村関係 22 人）

感想：・戦時の教育、同和問題についてお話を聞きながら深く考えることができる内容であったと思います。

- ・小林さんのご苦労と現代の抱える差別、子どもへの虐待など心にしみました。部落以上に格差や差別が起こっている現代社会を見つめ直そうと思いました。
- ・「愛」の反対は「無関心」である。改めて考えさせられました。同和問題について関心を持って教えていきたいと思います。
- ・少年農兵隊という組織は、全く知りませんでした。一四歳の少年まで戦争に関わりを持っていたことを考えると、改めて平和の大切さを感じさせられました。
- ・記録がほとんど皆無である農兵隊について、ご自身の体験や同じ農兵隊であった方々への聞き取りなど、歴史的にも本当に貴重なお話で、大変勉強になりました。
- ・この体験と記録を残していくことが大切だと感じました。自分の地域にもいるのか確かめ



てみたいと思います。

③ 学校で行われている授業参観

公開していただいた学校：大田市立大町西小学校 大田市立第一中学校 塩尻市立桔梗小学校  
木曾郡上松町立上松中学校

④ 10月8日（木） 会 場：安曇野市貞享義民記念館

内 容：講義「コロナ禍の人権を考える ～貞享騒動に見るリーダーの視点～」

講師・貞享義民記念館館長 中村真市さん

シアター、展示室見学

受講者：当日参加 20 人

（学校職員 1 人・市町村関係 19 人）

感 想：・現在のコロナ禍にも関連づけていただき、  
貞享騒動の背景がよくわかりました。現代  
社会との関わりをどのように意識してい  
くかが大事だと思いました。

・現代に通じる、人権教育の根幹にも通じる

お話を聞くことができ、大変よかったです。中・高生にも聞いてもらいたいです。

・支配者と被支配者の立場は、それぞれであるが、支配者の都合で文書を変えたり「きまり」  
を作ったりして、被支配者の人権を無視していた江戸時代のことがよく理解できた。現在  
社会でも共通点があり、人権侵害が未だに続いていることがわかった。

・真実を見抜く力、一人ひとりの違いを尊重して命を大切に生きる、そのために立ち上がった  
た加助さんの気持ちに触れました。

⑤ 11月20日（金）長野朝鮮初中級学校 中止



## 【人権教育・啓発研究協議会 及び 長野県人権教育リーダー研修会】

期 日：10月2日（金） 会 場：キッセイ文化ホール中ホール

内 容：実践発表「ひとりひとりが大事」

発表者・元王滝村教育委員会生涯学習課係長 木下大輔さん

講演会①「ハンセン病問題 ～みんなが当事者～」

講師・長野県同和教育推進協議会 事務局長 清水 稔さん

講演会②「respirer ～ 歌と私と僕 」

講師・シンガーソングライター 伊藤ひよりさん

受講者：当日参加 34 人

感 想：・自分の中にも差別意識はある。その意識をどのようにコントロールしていくのかで人間  
性が問われる。偏見に基づかない正確な知識を正しく理解することが大切なのだと思っ  
た。多様な情報に惑わされない見極める力をつけていくためにも、大事なことだと思う。  
そんな力を身に付けていきたい。

・いかに自分がハンセン病について曖昧な捉えをしていたかということに気づかされました。  
教育をする以上、知識をもっと身につけないといけないと感じました。

・地道な実践に感動。しっかり学ばせていただきました。是非とも継続的に教師の卵たち  
に伝えてほしいと思います。初任研必修の講座にしてください。

・当事者の言葉は貴重であり、重い。入口の話ではあったが、「知る」ことに大きな意味を  
感じました。

・10人集まれば10の個性がある。それを認める社会であって欲しい。納得です。説得  
力のある歌とお話でした。

・個性を認め合えるように言うのは簡単だけど、本当にできるのか、そうしているのか、  
自分自身に改めて問いたい。そう思わせられる内容でした。伊藤さんの想いを一人でも  
多く広げていきたいと思いました。



◎今後も、人権教育推進リーダーの皆様やこれから社会人権・学校人権教育を推進していく皆様、人権教育に関  
心のある皆様のお力になれるよう事業を計画していきます。ご意見等ありましたらお気軽にお伝えください。